

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19510249

研究課題名（和文） オーストラリアにおける白人性の歴史的形成と世界構造

研究課題名（英文） Historical Development of Whiteness in Australia and the World Structure

研究代表者

藤川 隆男（FUJIKAWA TAKAO）

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70199305

研究代表者の専門分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：オーストラリア、白人性、ホワイトネス、移民制限、人種差別、スポーツ、白豪主義、ジェンダー

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、従来から取り組んできた白人性研究の理論的背景やその射程に関する研究を基にして、オーストラリアという特定の地域で、白人性に関する理論的枠組みを、歴史的に検証することである。

その理論的枠組みは、白人性を身体に規定される白人性（危機的白人性）と、人類の標準を志向する普遍的な白人性という、白人性に関する二つの理念型と、その混合物としての4つの歴史的な形態を想定し、それによって人種、ジェンダー、階級などの差異と差別によって規定される社会構造を理解し、説明しようとする試みであった。

この理論的な枠組みを、オーストラリアにおける具体的な事例、反中国人運動、白豪主義、連邦運動、ヨーロッパ系エスニックのアイデンティティ、多文化主義（スポーツとメディア）などを通じて、順次検証するのがこの研究の主な内容である。

2. 研究の進捗状況

(1) オーストラリアにおける関連文書の調査・収集やインタビューのために、オーストラリアに2度渡航し、約2ヶ月間にわたって研究を行った。

(2) ニューサウスウェールズ大学のデータベースを利用し、ジェンダーの視点から連邦運動の分析を進めた。

(3) 課題として明らかになった理論的枠組みの再検討のために、オーストラリア学会のシンポジウムとして、オーストラリアの研究者と国内の研究者を招き、移民制限（白豪主義）の問

題やスポーツの問題と白人性の関連を検討した。そこでは、国家のアイデンティティを象徴的にあらわす位相の重要性が確認された。

(4) 上記のスポーツの問題に関して、オーストラリアにおける人種とスポーツの関連を、スポーツ史学会のシンポジウムで報告、原稿にまとめた。

(5) 啓蒙思想、公的領域の問題などの理論的課題の克服に取り組んだ。ヘンリー・パークスの思想を検討し、白豪主義思想と現在の新自由主義の関連性を追及した。この成果はメルボルンの国際学会で報告予定であったが、事故のために果たせず、論文として『パブリック・ヒストリー』に掲載した。

(6) 理論的枠組みを再検討し、人類というカテゴリーの成立とそのサブカテゴリーとしての人種概念の確立、さらにそれと啓蒙主義的人間観の成立の関連性について分析した。

(7) オーストラリアにおける白人性の問題を比較史的観点から分析するために、アメリカにおけるアイデンティティ管理の問題を検討した。これに関連して、『パスポートの発明』の著者で、身分証明書とアイデンティティの問題に関して独創的な理論を展開しているジョン・トーピーをニューヨークに尋ねて、意見を聞いた。

(8) 白人性に関するホームページの作成を開始した。平成22年6月に公開を予定している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理論的枠組みの再検討が必要になり、グロー

バルな差異と差別のシステムとしての白人性の構造を理論化する作業が加わったことで、研究の枠組みに一部の修正があり、また、骨折のような予期せぬアクシデントによる学会への参加の見合わせがあったが、海外での調査3回、国際シンポジウムの開催、スポーツ史学会シンポジウムでの基調報告、英語論文2本の刊行など、成果は順調に積みあがっており、主要な作業は、最終成果の出版を残すだけになっている。以上のような状況から、研究はおおむね順調に進展していると考えられる。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は出版成果を示すこと、ホームページ等を通じて、広く研究の情報を提供することを主な目標とする。

(1) 刀水書房から本を出版する。できれば助成は受けずに刊行することを目標に、準備を進める。

(2) 関連する論文を2本出版する。

(3) 現在作成中のホームページを完成し、公開する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①藤川隆男「From Henry Parkes to Geoffrey Blainey: a stronger or persistent strain of 'White Australia」『パブリック・ヒストリー』、有、6号、2009、48-62頁。

②藤川隆男編「フォーラム—オーストラリアにおける白人性の相克—先住民によるスポーツと移民制限」『西洋史学』、有、231号、2008、65-81頁。

③藤川隆男「Whiteness Studies in Japan: Types of Whiteness visible and invisible」、『パブリック・ヒストリー』、有、5号、2008、1-13頁。

[学会発表] (計2件)

①藤川隆男「アボリジナルの近代スポーツ史」、スポーツ史学会、2008年11月22日、コラッセ福島。

[図書] (計1件)

①藤川隆男『猫に紅茶を』、大阪大学出版会、2007、220頁。